

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アパホテル<博多駅前>新	階数	地上15F
建設地	福岡市博多区博多駅前1丁目151.152.153	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	450 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	飲食店,ホテル,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年5月 予定	評価の実施日	2019年9月4日
敷地面積	1,121 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 IAO竹田設計 大阪第二事務所
建築面積	705 m <sup>2</sup>	確認日	2019年9月4日
延床面積	6,785 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 IAO竹田設計 大阪第二事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	184
②建築物の取組み	138
③上記+②以外の	46
④上記+	0

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.0  
Q2 サービス性能: 2.4  
Q3 室外環境(敷地内): 2.8  
LR1 エネルギー: 3.1  
LR2 資源・マテリアル: 3.5  
LR3 敷地外環境: 2.9

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

音環境	3.0
温熱環境	2.6
光・視環境	3.0
空気質環境	3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.4

機能性	2.1
耐用性	3.0
対応性	2.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

建物外皮の	4.5
自然エネ	3.0
設備システ	2.7
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

水資源	3.0
非再生材料の	3.6
汚染物質	3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

地球温暖化	3.5
地域環境	2.4
周辺環境	2.8

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	計画地の北側・西側道路に対し歩道状公開空地を設け、建築物を道路境界線よりセットバックさせることで周囲への圧迫感を和らげている。また、公開空地部分には季節感を感じさせる植栽を配置、憩いの場としてベンチを設けるなど、ホテル利用者以外にも貢献するよう計画している。	その他 0
<b>Q1 室内環境</b>	客室において、昼光率に配慮し、共用部を含めてF☆☆☆☆の建材を採用している。また、建物内を禁煙とし、室内環境の向上に努めている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 標準的な配慮を行っている。
<b>LR1 エネルギー</b>	建物全体のBEIm=0.85とし、建物の省エネルギー性能の向上に努めている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率87%とし、その他の項目についても標準的な配慮を行っている。
<b>Q2 サービス性能</b>	設備配管の更新対策に配慮し、配管の支持方法を耐震クラスAとするなど、建物のサービス性能に配慮した設計としている。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	非構造材にリサイクル材を3種採用し、LGS下地を採用するなど、資源・マテリアル項目について配慮した設計としている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される